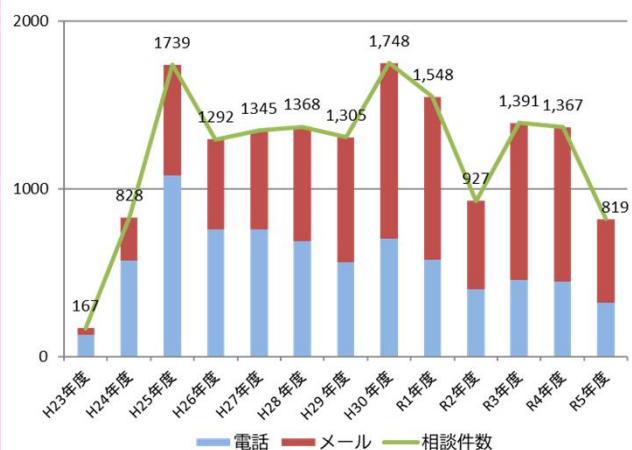


# 「にんしんSOS」相談実績（平成23年度～令和5年度）

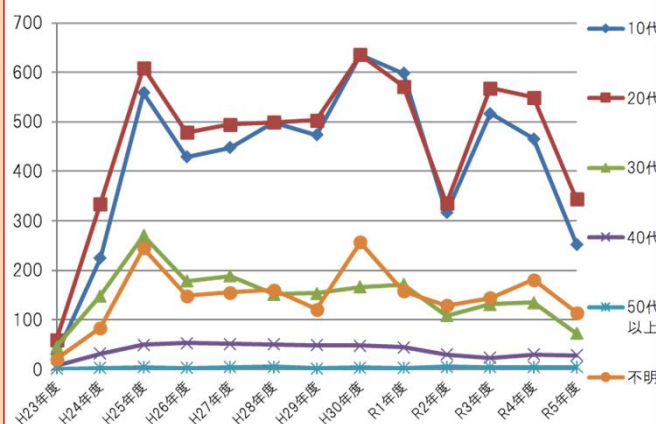
※平成23年度は6か月分の集計

- ◆相談件数は、H25年をピークに約1,300件で推移していた。R2年度は新型コロナウイルス感染症の社会的影響が減少がみられ、R3年度に例年並みとなるが、以降減少傾向にある。H29年度からはメールでの相談が電話を上回り、相談者は思いがけない妊娠に悩み、インターネットを利用して情報を探る中で、「にんしんSOS」ウェブサイトからメール相談に至る経緯が推測される。
- ◆相談者の年齢は、10～20代の若年者が多く、R5年度は10代の相談が全体の3割、そのうち学生は、全体の4割を占めた。
- ◆H31年4月1日より日曜日も相談開設し、相談の拡充を図っている。

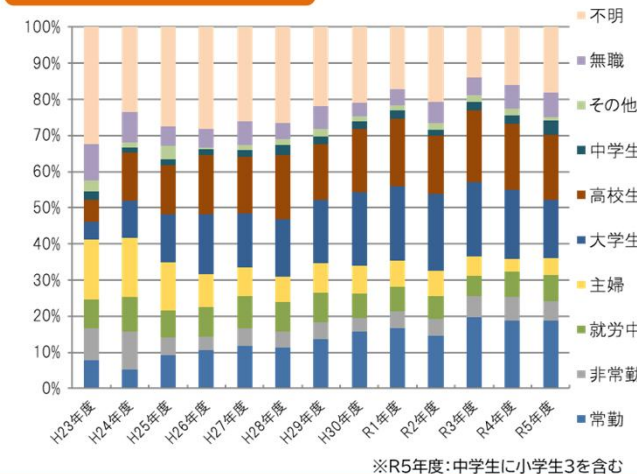
## 初回相談件数



## 相談者の年齢



## 相談者の職業



## 令和5年度の主な相談内容

- 妊娠不安…………… 46.8%
- 産もうかどうか…………… 19.0%
- 現在の体の状況…………… 9.8%
- 中絶…………… 7.8%
- その他(緊急避妊等)…………… 16.6%

### 特徴

- 月経が遅れている、妊娠したかもしれない、避妊に失敗したなど、「妊娠不安」が約半数ある。このような思いがけない妊娠にまつわる悩みの背景には、家庭不和や経済的な問題、相談者自身の精神的つらさがかえることが多い。
- 10代の相談者からの内容は、現在の身体の変化が妊娠兆候ではないかという不安、妊娠の可能性のある行為かどうかを確認するもの等が目立つ。「誰にも相談できない」「どうしたらいいか」「助けてください」等、身近に相談者がおらず、地域で孤立している方の相談も多い。

## 令和5年度の主な対応

- 情報提供…………… 77.4%
- 傾聴・助言等…………… 9.2%
- 受診勧奨…………… 8.9%
- 紹介・連絡…………… 0.7%
- その他…………… 3.8%

### 特徴

- 相談者に寄り添い、悩みに対し妊娠や出産についての正しい知識や情報を伝えている。
- 継続した支援が必要と考えられる場合は、地域の保健機関等と連携し、サービスを提供する等必要な支援に繋いでいる。

## 今後の対応

- 若年層に対し、教育との連携により学校への周知啓発を強化。また、公民連携企業や団体の協力を得て、店舗等への啓発チラシ設置。
- 研修会等の場を活用し、学校関係者や地域保健機関、NPO等、地域で若年者を支援する機関への周知・啓発。
- 妊娠・出産・育児を通しての地域における切れ目ない支援体制づくり、地域保健機関との連携強化。